

1 経営理念

<input type="checkbox"/> 学校教育目標 確かな学力を持ち、夢や目標に向けて能動的に活動する生徒の育成
<input type="checkbox"/> めざす学校像 ○信頼される学校 ①安心・安全な学校（安心して楽しく生活できる） ②確かな学力を身に付けさせる学校（学力の向上） ③夢をかなえる学校（自己の成長・良さが実感でき、夢と自信が育つ） ④美しい学校（環境・礼節・一生懸命が美しい） ⑤地域に貢献する学校（地域と連携して地域の活性化に貢献）

2 経営目標・評価指標・評価等

評定 S : 100%, A : 99~90%, B : 89~70%, C : 69~50%, D : 49~0%

	中期経営目標	短期経営目 (達成目標)	評価指標	評価	成果 (○)・課題 (▼) 等	今後の取組・改善策
確かな学力	○基礎的な知識・技能の定着を図り、思考力・表現力や自己学習力を身に付けた生徒を育てる。	○各種学力検査で、国または県平均を上回る。 ・平均以上、または昨年以上	○生徒全員が国や県の平均以上、又は昨年以上の正答率。	A	○学校平均は県、国の平均を全教科上回った。 ▼活用力を問う問題に課題がある。 ▼30%未満の正答率の生徒が前年度より1名増えている。	・少人数を活かした細かな指導を行う。 ・活用力を高める学習活動を取り入れる等、授業改善を行う。 ・個別指導を継続して行う。
		○自分の考えを筋道立てて表現する（書く・話す）ことができる。	○70%以上の生徒が肯定的に自己評価している。	B	○約6割の生徒が肯定的評価をしており、ノート等を活用した思考の整理が定着しつつある。 ▼約4割の生徒が否定的な回答をしており、論理的思考を促す学習活動が不十分な状況がある。	・ノート作成の好事例を掲示する。 ・ノートにしっかりと自分の考えを書かせる。 ・「筋道を立てて表現する」の具体例を各教科等で示す。 ・発問の工夫やノートを活用した授業展開など論理的思考を促す学習活動について研修し、授業改善を図る。
		○家庭学習習慣を定着させる。 ・2時間以上家庭学習を行う。	○生徒全員が2時間以上家庭学習を行っている。	B	○昨年度より学習時間は少しずつ増えてきている。(対前年同期比 +19.4ポイント) ▼学習時間が2時間未満の生徒が8名いる。また、宿題等の未提出者がいる。	・生活ノートを利用し、自主勉強を充実させるように指導する。 ・復習や予習など、教科の学習と関連付けた家庭での学習課題を設定する。 ・細かな家庭連携を行い、取組の様子を伝える。
		○読書習慣を定着させる。 ・年間15冊以上本を読む。	○生徒全員が年間15冊以上本を読んでいる。	C	○対前年同期比で7.9ポイント増えた。 ▼朝読書の時間に宿題等を行っている生徒がいる。朝読書の指導を徹底させる。	・読まない生徒への意欲付けをおこなう。 ・教職員による朝会での本の紹介や図書の展示などの取組を続ける。 ・生徒の希望図書を購入し、関心を高める。 ・委員会活動の充実をはかり、関心を高める。
豊かな心	○礼儀や規範意識を身につけ、場に応じた行動のできる自律した生徒を育てる。	○場に応じた挨拶ができる。 ・レベル5の挨拶	○生徒全員が、式、朝会、授業、来客への対応等の場で、レベル5の挨拶ができています。	C	▼「あいさつ」は昨年度より10.3ポイント減少している。 ▼「授業中」は52.9%、「式、集会中」は58.8%の肯定的評価となっており、相対的に低い。	・不十分ならやり直しをさせる。 ・指導・対応の統一を図り、より丁寧に指導する。(特に授業時) ・教職員が生徒の挨拶に元気よく答えるよう心がける。 ・呼びかけなど生徒会活動と連動して取組む。
		○整理整頓や掃除がきれいにできる。	○生徒全員が掃除や身の回りの整理整頓ができています。	B	▼「掃除」、「整理整頓」の両方とも肯定的評価が88.2%であり、全体指導と個別指導により100%を目指す。 ▼教室、体育館の個人ロッカーが整理されていない。	・個別指導を続ける。 ・無言で掃除ができるようレベルアップを図る。 ・下駄箱やトイレのスリッパの整理を意識させる。 ・呼びかけなど生徒会活動と連動して取組む。
		○ルールを守って生活できる。 ・校則、時間	○生徒全員が校則と時間を守っている。	A	○「校則」は100%、「時間」は94.0%の肯定的評価である。 ○継続、あるいはより高い意識を持たせるために取り組む。	・時間を意識した行動ができるよう、声かけをする。 ・校舎内の時計の調整を毎日行い、時間のずれを無くして、時間を意識した行動をうながす。
健やかな体	○基礎体力を向上させ活力ある生徒を育てる。	○生徒が「自分には良いところがある」「周りから認められている」と感じている。	○生徒全員が自分のことを肯定的に自己評価している。	B	▼昨年度に対して、どちらも6ポイント減少。 ▼達成感や自信を持たせる取組の継続が必要。	・マイナス評価をした生徒に対して、肯定的な評価の声掛けをする。 ・生徒同士が認め合う機会を増やす。 ・ボランティアカード・達人ボード等の導入を検討する。 ・教師が積極的に肯定的な評価をする。
		○基本的な生活習慣が身についている。 ・給食、朝ごはんの定着	○生徒全員が朝食をとり、給食を残さず食べている。	A	▼食に対する生徒の意識を高める取組の継続が必要。 ▼食事をとってない個人への対応が必要。 ▼保護者とも連携し100%達成を目指す。	・調理場栄養士とも連携し、食の大切さについての学習や保護者への啓発活動を継続する。 ・食の不足による心身への影響を具体的な事例を通して家庭に協力を求める。
信頼される学校	○学んでよかったと思える学校にする。	○ワンステップタイムを充実させる。	○生徒全員が体力が向上したと感じている。	S	○100%の肯定的評価であるが、遅刻等により参加できていない生徒がいる。 ○今後も全員が参加できるよう取り組む。	・委員会で担当者を明確化し、楽しみながらできることを継続する。 ・11月から活動時間が放課後に移行するため、基礎体力が向上する内容を企画する。 ・スポーツテストの結果を活用した運動内容を取り入れる。
		○生徒が授業や学校生活に満足している。	○生徒全員が「授業はわかる」「学校が楽しい」と肯定的に評価している。	A	○全教科で、統一した授業モデルに基づいた、わかりやすい授業づくりを継続する。 ▼「楽しい」に否定的評価をする生徒の理由等を把握した対応が必要。	・授業研究の充実を図る。 ・つきたい力（めあて）を明確にする。 ・自己存在感の持てる活動を行事以外の日常の中にも仕組んでいく。
信頼される学校	○保護者が本校教育に満足している。 ・安心と満足	○保護者が本校教育に満足している。 ・安心と満足	○保護者全員が、「安心」「満足」と肯定的に評価している。	A	○相対的に高評価を得ている。 ○生徒一人一人を全員で見ていることへの評価と考える。 ○通信やHP等での情報提供とともに細かな保護者連携の成果と考える。 ▼生徒間の言葉遣いや態度などで相手に嫌な思いをさせているのではという意識が低く、不安に感じている保護者がいる。	・引続き通信やHP等で情報提供する。 ・教職員が生徒の様子について情報共有を心がける。 ・学年会を中心に組織的に対応し、保護者連携を細やかに行う。 ・行事等へのアンケートや学級懇談、期末懇談等で把握した意見や要望等を、今後の取組にいかす。